

中間支援活動助成(創設支援)事業実績報告

団体名	(特非)地域チャレンジセンター・プラス	代表者名	代表 大島 一晃
事業名	北神区初の中間支援組織設立事業 (1年目)		

<事業実施実績>

	①相談業務	②ネットワークの構築 情報提供	③人材育成 (講座開設等)	④書類作成 指導	⑤その他 調査研究等	⑥支援・指導 ・連携
R4 計画	—	—	2	—	2	3 団体
R4 実績	1 4	1 回 * 1 回はコロ ナ蔓延で休止	2	3	2	4 団体

<効果と成果>

当団体は、NPO 支援や広報コンサルタントなどの専門家に加え、北神地域で活動する介護事業所や地域密着型の鍼灸院などの事業者、外国人支援や子育て・母親支援に関心あるメンバーで立ち上げた中間支援団体であり、メンバーの多様性と視点の多角性に基づく支援機能については強みであると感じている。1年間の取り組み(講座・交流会・相談支援等)を通して北神地域に関わる出会いが数多くあり、新たな会員となっていただくなど活動が幅広く展開する一歩目を踏み出せたものと考えている。

一方で、運営委員をはじめ全員が他の仕事との掛け持ちで当団体の活動に取り組んでいることもあって、事業実施のスピード感はどうしても遅れがちになる。2023年3月法人化予定に合わせて、組織の土台となる専従職員を短時間雇用でもできるような組織基盤整備に取り組むことが課題である。

<連携と協働の成果>

アイデア創出会議淡河編では、地域の取り組みを聞くだけでなく、その地域がなぜ事業が拡大できるのか、その要因を参加者同士で深掘りする話し合いを行った(そのための事前準備・打ち合わせも丁寧に行った)。その結果、お互いの理解が深まり、事業終了後に参加者同士で新たな企画会議が始まる場面も見られた。このような、参加者同士の「意欲」が促進されるような場づくりを通して、自発的な動きを今後も促進していきたい。

また、神戸市北区社会福祉協議会(北神事務所)と連携し、地域団体についての情報交換を行ってきた。北区社協も、こどもの居場所補助金採択団体の情報しかテーマ型団体とのつながりがなく、北神地域での活動団体同士のつながりがこれまでなかった状態だった。当団体が社協などと連携しながら、少しずつネットワークづくりに取り組んでいきたい。

<今後の展望>

神戸市北区北神地域は、人口 10 万人強が住むニュータウンおよび農村地であるが、これまでテーマ型活動団体や地域団体の顔が見えず、市民活動が活発とはいえないエリアであった。当団体が「旗をあげる」ことによって興味・関心をもつ人が徐々に見えつつあり、そのような「ひとりの人」とつながりながらその人の思いを実現していく支援に取り組み始めている。

また、淡河の取り組みを始め、地域にはさまざまなポテンシャルがあることが確認された。潜在化する（と思われる）地域の魅力にアプローチしつつ、テーマ型活動と地縁活動とをつなげていく取り組みも加速させていきたい。

そのような多様な立場がごちゃまぜになってわちゃわちゃと取り組む部分から価値が生まれるものと信じて取り組んでいる。法人化に伴い、より多様なメンバーの参画を促し、多様なわちゃわちゃが生まれる場づくりに取り組みたい。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
参加費	7,200
自己資金	7,315
合計	514,515

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金 (円)
直接 経費	謝金	320,500	308,000
	旅費交通費	11,060	11,000
	消耗品	89,656	89,000
	その他（会議費、印刷費、通信費、バス借上代 等）	93,299	92,000
	小 計	514,515	500,000
間接経費（一般管理費）		0	0
合 計		514,515	500,000